

OCT 15 2004



Japanese Patent Laid-Open Publication No. 2000-102591

[Title of Invention] DEVICE FOR STIMULATING MERIDIAN POINTS OF THE HUMAN BODY

[Abstract]

Most of conventional devices for stimulating meridian points of the human body are constructed of a structure stimulating the same region of a user's body or a structure in which it is difficult for the old or the physically handicapped to use the conventional devices. Furthermore, the user feels inconvenience in applying the conventional device to the user's body by himself or herself or by others, and cannot use it for a long time period. Therefore, to solve the above problems, it is an object of the present invention to provide a device for stimulating meridian points of the human body, which allows the old and the physically handicapped to easily use it, and which includes built-in magnets beneficial for the human body, thereby promoting blood circulation by stimulating the user's body so as to prevent suffering from diseases.

[Constitution]

The device for stimulating meridian points of the human body according to the present invention includes a clip(1) for providing fitting power, and magnets(3) beneficial for the human body. In the device for stimulating meridian points of the human body, the magnets(3) are embedded in the front end portion(2) and a circular part(4) of the clip(1).

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-102591

(P2000-102591A)

(43)公開日 平成12年4月11日(2000.4.11)

(51)Int.Cl'

A 61 H 39/04

A 61 N 2/08

識別記号

F I

A 61 H 39/04

A 61 N 1/42

マーク(参考)

S 4 C 1 0 1

Y 4 C 1 0 6

C

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全2頁)

(21)出願番号 特願平10-311573

(22)出願日 平成10年9月28日(1998.9.28)

(71)出願人 000166074

古謝 宏元

沖縄県中頭郡北谷町字砂辺346番地の2

(72)発明者 古謝 宏元

沖縄県中頭郡北谷町字砂辺346番地の2

Fターム(参考) 4C101 BA10 BB00 BB20 BC01 BD07

BD26 BE04

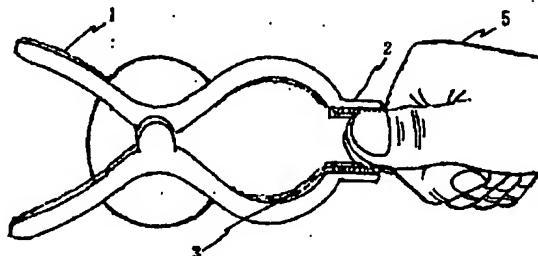
4C106 AA01 BB06 CC03 DD01 EE07

(54)【発明の名称】 ツボ押し器具

(57)【要約】

【目的】 従来のツボを刺激する器具のほとんどは、同じ部分だけ刺激したり、これらの器具を使用するのに高齢者や身体に障害のある人には、無理な構造であった。又、直接自分あるいは他人に指圧をさせたりしていますが、面倒で長続きしませんでした。本発明は、これらの面倒なことを除去することで高齢者や身体に障害のある人でも容易にツボを刺激し、人間に良いと言われる磁石を内蔵することで、血管の循環をよくし体を刺激して病気知らずですごすこと目的とする。

【構成】 本発明は、クリップ(1)の持つはさむ力と人間の体にとって良いと言われる磁石(3)で構成したものである。クリップ(1)の先端部(2)及び円部(4)に磁石(3)を内蔵した「ツボ押し器具」である。



(2)

【特許請求の範囲】

【請求項1】クリップ(1)の先端部(2)及び円部(4)にツボ押し部を形成したツボ押し器具。

【請求項2】クリップ(1)のツボ押し部に、磁石(3)を内蔵した特許請求の範囲第1項記載のツボ押し器具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】原因のわからない不快な症状、さまざまな疾患を、ツボ療法で自然の治癒力を引き出すことによって改善すると言われていますが、本発明は、人間には365のツボがあるとされていますが、そのツボを押すための器具としてクリップのはさみ部分にツボ押し部を形成し、クリップのはさむ力と磁石を利用した健康器具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、ツボ押し器具には、くるみやゴルフボールを手のなかで握りながら利用したり、傘の取つての部分で肩のツボを刺激したり、つぶつぶマット・つぶつぶサンダル等があり、磁石を内蔵したテープをツボにはりつけたり、自分で直接指圧で押したりしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のツボを刺激する器具のほとんどは、同じ部分だけ刺激したり、又、器具を使用するのに高齢者や身体に障害がある人には、無理な構造がありました。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、クリップ

(2)

* (1) の持つはさむ力と人間の体にとって良いと言われる磁石(3)で構成したものである。クリップのサイズは、ツボの位置にあったサイズを選び使用することで、365もあると言われるツボを刺激出来るものである。ツボをクリップで間隔を持ってはさむことで効果がある。

【0005】

【実施例】図1は、クリップ(1)の先端部(2)と円部(4)にツボ押し部を設置した「ツボ押し器具」の斜視図、図2は、本発明を施した複数のツボを押す「ツボ押し器具」の斜視図である。

【0006】

【発明の効果】このように構成したから、高齢者でもクリップでツボをはさむことで容易に指先等を刺激することが出来、血液の循環をよくし、内蔵諸器官の機能を高め、体の自然治癒力を引き出すことが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を施した「ツボ押し器具」の斜視図。

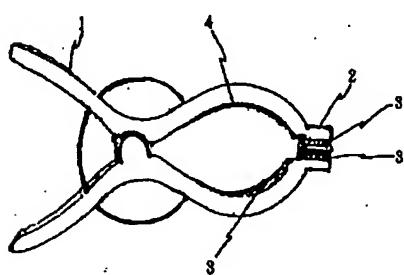
【図2】本発明を施した複数のツボを押す「ツボ押し器具」の斜視図。

【図3】本発明を施した「ツボ押し器具」の使用状態の斜視図。

【符号の説明】

- 1 クリップ
- 2 先端部
- 3 磁石
- 4 円部
- 5 手

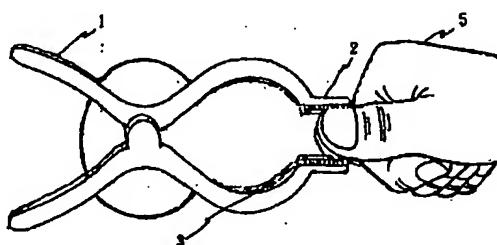
【図1】



【図2】



【図3】



【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成13年1月9日(2001.1.9)

【公開番号】特開2000-102591(P2000-102591A)

【公開日】平成12年4月11日(2000.4.11)

【年通号数】公開特許公報12-1026

【出願番号】特願平10-311573

【国際特許分類第7版】

A61H 39/04

A61N 2/08

[F I]

A61H 39/04 S

Y

A61N 1/42 C

【手続補正書】

【提出日】平成11年12月22日(1999.12.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】ツボ押し器具

【特許請求の範囲】

【請求項1】クリップ(1)の先端部(2)及び円部(4)にツボ押し部を形成したツボ押し器具。

【請求項2】クリップ(1)のツボ押し部に、磁石(3)を内蔵した特許請求の範囲第1項記載のツボ押し器具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ツボ療法で自然の治癒力を引き出すことによって、原因のわからない不快な症状、さまざまな疾患を改善する方法で人間には365のツボがあるとされています。そのツボを押すための器具としてクリップのはさむ部分にツボ押し部を形成し、クリップのはさむ力と磁石を利用して健康器具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、ツボ押し器具には、くるみやゴルフボールを手のなかで握りながらツボを刺激したり、傘の取つての部分で肩のツボを刺激したり、つぶつぶマット・つぶつぶサンダル等があり、磁石を内蔵したテープをツボにはりつけたり、自分で直接指圧で押したりしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のツボを刺激する器具のほとんどは、同じ部分だけを刺激したり、又、器具を使用するのに高齢者や身体に障害がある人には、無理な構造がありました。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、クリップ(1)のはさむ力と人間の体にとって良いと言われる磁石(3)で構成したものである。クリップ(1)の材質は、ポリプロピレン・スチロール樹脂・木・金属製などがある。洗濯物を干すためのクリップ・女性の髪用のクリップ・書類用のクリップ等に使用されている材質からなるクリップの先端部(2)、円部(4)に凹部を設置して、そこに磁石(3)をはめ込み接着したり、接着テープで磁石(3)をカバーしたり、クリップの材質がポリプロピレン・ABS樹脂等のクリップに磁石(3)を内蔵、金属のクリップだと先端部(2)・円部(4)に磁石(3)をくっつけたりして形成したものである。

【0005】

【実施例】図1は、クリップ(1)の先端部(2)と円部(4)にツボ押し部を設置した「ツボ押し器具」の斜視図、図2は、本発明を施した複数の指のツボを押す「ツボ押し器具」の斜視図である。

【0006】

【発明の効果】このように構成したから、高齢者でもクリップ(1)でツボを押すことで容易に指先等を刺激することが出来、血液の循環を良くし内蔵諸器官の機能を高め、体の自然治癒力を引き出すことが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を施した「ツボ押し器具」の斜視図。

【図2】本発明を施した複数の指のツボを押す「ツボ押し器具」の斜視図。

【図3】本発明を施した「ツボ押し器具」の使用状態の

斜視図。

【符号の説明】

- 1 クリップ
- 2 先端部
- 3 磁石
- 4 円部

* 5 手

【手続補正2】

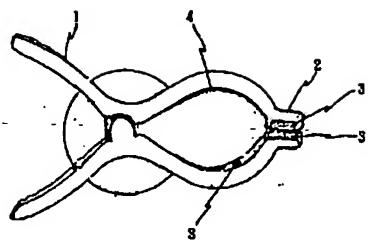
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

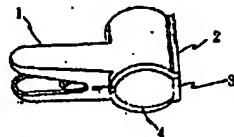
【補正方法】変更

* 【補正内容】

【図1】



【図2】



【図3】

